

宗族制度や祖先祭祀 発展する地域にあって復活著しい伝統の姿を活写し、さまざまな事例から、現代中国における新たな社会組織形成の論理を探る。

現代東南中国の漢族社会

南農村の宗族組織とその変容

平安女学院大学 潘宏立著

目次

まえがき

序章

第一章 伝統的社会組織

第一節 南地方および調査村の概況

第二節 村落連合

第三節 調査村の伝統的社会組織

第二章 近代的行政組織

第一節 行政組織の歴史的変遷

第二節 農業集団化の時期における行政組織

第三節 今日の行政組織

第三章 伝統的社会組織の変容 宗族の再組織化

第一節 宗族組織の再統合

第二節 祖先祭祀の再興

第三節 老人会 現代における宗族の再興

第四章 現代的宗族の拡張と葛藤

第一節 「宗親」組織の再結成

第二節 宗族内外の紛争と調停

第三節 政治との関わり

結論

付録

参考資料

調査資料

資料原文

参考文献

あとがき

もちろん、現在の宗族は封建時代の宗族の複写ではない。宗族の構成原理を継承しながら、「伝統」が新たに再創造されている。現在の南宗族の再興の社会・経済的背景は明の中期と類似するところがある。ともに個人経済の急発展、社会の不安定の要素の増大がある。しかし、宗族発展の社会要因には大きな相違点が見られる。宋や明代では、著名な儒家なないし無名の郷紳が王朝の賛同や支持で宗族の発展を推進した。しかし現在、宗族の発展に関しては、なお政府は否定的な見方を捨てていない。したがって、宗族再興は政府主導ではなく、草の根の村民たちの主導による現象と考えられる。いったい南ではなぜ宗族は早くも再興したのか、現在の宗族はどんな状況であるのか、これらの解答は本書の内容になっているので、ご覧いただきたいと思う。

本書は東南中国の宗族研究の学術的著作であるが、複雑な理論構築や論述よりむしろ多くの実例を記述した民族誌の色合いが濃い。人類学者によるこの地域での宗族組織の現地調査や研究はまだ少なく、不十分である。したがって、現時点での理論の構築には限界があり、筆者は、フィールドワークをこの地域宗族研究の第一歩として重視してきた。本書はいきいきとした事例や実証的データを豊富に取り入れていることが特色である。それを評価していただければ、筆者としては大変有難い。（「まえがき」より）

体裁

・A5判・上製・カバー
・四〇〇頁

定価

・七四〇〇円
(本体価格/税別)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四 一四九
電話〇三(三八二八)九二四九
<http://www.fukyo.co.jp>

注文書

流通センター
取扱品

出版
地方

発売

風響社

TEL: 03-3828-9249

本体

七四〇〇円

部

潘宏立著

現代東南中国の漢族社会

南農村の宗族組織とその変容

ISBN4-89489-010-0 C3039 ¥7400E

【お客様控え】

ご氏名

ご住所

お電話

月 日